

要請項目骨子

4月初旬、東京都教育委員会は「平成22年度東京都立高等学校定時制課程の第一学年生徒の追加募集」を決定し、定時制10校に対し追加募集を行うよう指示しました。学校現場は大混乱に陥り、現在に至るまでその混乱と負担は続いています。そもそも、300人を超える不合格者が出るという昨年度の定時制入試（2次募集）の事態は、「予想を超えた突発事故」ではありません。1997年～2002年の「都立高校改革推進計画」によって全・定都立高校を統廃合し、とりわけ定時制を半数に減らしたことに根本的な原因があります。加えて、都内の中学卒業生が大幅に増加し、向こう十数年「高原状態」が続く状況は都教委自身が明らかにしているところです。さらに、経済状況の悪化や高校無償化などの流れの中で、都立高校志願者が一層増加することは十分予想できたことです。この数年間、定時制2次募集で不合格者が増大する中で、「都立定時制高校を守る会・連絡会」は、不合格者が大量に出る可能性を繰り返し指摘し、定時制の募集枠拡大を一貫して求めました。しかし、都教委として何ら十分な対応策を措置することなく、今日の事態を迎えてしまったのです。今回のような事態を繰り返さないために以下の点について改善されるよう強く要請致します。

記

- 一、今回の事態の原因と責任を明らかにするとともに、都立高校の新設・募集停止校の募集再開などを含む、中・長期的展望に立った就学計画を早急に策定し、都民の前に明らかにしてください。その際、学校現場の実情を無視するような一方的なやり方を繰り返さず、在校生や保護者、現場教職員等の声を十分反映させながらすすめてください。
- 二、今回の「追加募集」で大量不合格者が救済されたと考えているのかどうかを含め「追加募集」の内容ややり方に関してどう総括しているのか明らかにして下さい。
- 三、来年度入試に関しては今回のような急場しのぎではなく、夜間定時制等の閉課程校の募集再開（新規開校）を軸とした定時制枠拡大を行ってください。
- 四、今まで確認されてきた定時制の「学級増基準」「募集停止基準」に関しては、再度確認するとともに、改悪を行わないことを言明してください。
- 五、一方的に「追加募集」を押しつけられた10校に関しては、在校生や保護者、現場教職員等の要望を最大限に受けとめながら、教職員定数を増やすなど教育条件の整備をはかってください。

都立定時制高校を守る会・連絡会

代表 森 光男